

令和８年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立聖和小学校の結果概要

平均正答率については、国語科・算数科共に大阪市・全国平均を上回ることができている。

全国との差においては、国語科は＋6.1％、算数科は＋7.6％となっており、良好な結果となった。

平均無回答率についても、全国の差において、国語科は－2.1％、算数科は－1.9％と、２教科共に全国平均を下回っているため、問題に対して積極的に取り組もうとしている姿勢がうかがえる。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】

５つの領域の全ての項目で全国平均を上回っており、特に思考力、判断力、表現力等の「読むこと」(+10.8％)、「話すこと・聞くこと」(+8.6％)で顕著な成果が見られた。一方で「書くこと」の正答率が他の項目に比べてやや低め(+2.9％)である。「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができているかどうかをみる」問題では、全国平均は80.0％に対し、本校は91.8％と高い正答率であった。しかし、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したり、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることについては課題が見られる。

【算数】

５つの領域の全ての項目で全国平均を大きく上回っており、特に「変化と関係」(+9.1％)「数と計算」(+7.6％)で、成果が顕著であった。一方で「測定」の正答率(+4.1％)と「データの活用」の正答率(+6.2％)は、他の領域に比べてやや低い。特に「二次元の表から条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる」問題は、全国平均が17.9％、本校は26.0％と正答率が低い。問題解決のために、示された情報を正しく読み取り、表の中の数や言葉を用いて記述するすることに課題が見られる。

質問調査より

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に対し、肯定的な回答が88.5％で、全国平均より高く(+7.3％)社会性や利他性が育まれている。また「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対しても肯定的な回答が87.1％と、全国平均より高く(+1.5％)、児童が自分の良さを認識できており、自己肯定感が高い児童が多い。

しかし、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」という質問に対しては肯定的な回答が83.3％で、全国平均よりはやや低い(-2.4％)結果であった。

今後の取組（アクションプラン）

今年度より、総合的読解力カリキュラムを念頭に入れ、全ての教科において文章や資料を正しく読み取る力を養うための授業の展開を工夫している。

特に国語科では、昨年度同様、読解力向上のために、読書活動の充実（読書週間、読書感想文）や、読解問題の多様化（説明文・物語文・資料文など）、音読や要約活動の導入に力を入れる。

算数科においては、情報の扱い方及び、資料の読み取りや情報整理の力を育てるためにグラフや表を使った読み取り活動やICTを活用した情報収集・整理の授業の実践を進めるとともに、読み取った資料を有効に活用し、自分の言葉でまとめることのできる力を養うための取り組みを行う。

また、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができるような話し合い活動をどの教科においても普段から意識して取り組み、話し合い活動の充実を図る。